

アピチャッポン・ ウィーラセタクン 監督映画上映会

会場／青森県立美術館シアター（各回定員200名）

世界のインディペンデント映画界を代表する映画監督の一人、アピチャッポン・ウィーラセタクン。美術家としても著名な氏の映画作品は、タイの民俗社会の現在にフォーカスを当て、夢と現実の境を行き来する幻想的な映像世界をあらわしてきました。本上映会ではカンヌ映画祭最高賞パルムドールを受賞した名作「ブンミおじさんの森」、タイ東北部イサーン地方の土地と人の記憶の交差をモチーフにした話題の最新作「光りの墓」、その他初期作品、短編映像作品群を上映します。本上映会は氏の映画作品を通じてタイと日本の「東北」の地をつなげる試みです。夢という創造と想像の原点から発される氏の映像世界を経験することで、あなたの心の中にもきっと、人と「東北」の大地に根付く精霊の存在が息づくことになるでしょう。ご期待ください。

「真昼の不思議な物体」

「ブンミおじさんの森」

「アピチャッポン短編集」

「光りの墓」

2016 / 9 / 3 (土)・4 (日)

全編無料

10TH

青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART

9/3

「真昼の不思議な物体」

(2000年 フィルム提供：山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局)

開場／9:30

上映／10:00—11:23 (1時間23分)

長編初監督作品。タイ北部の田舎の村で行商人の女性が「あるモノ」についての物語を語り始める。その続きは象使いの少年へ、伝統演劇の劇団員などへと引き継がれ、リレー形式で語られていくうちに物語は思わぬ方向へと進んでいく。様々な要素が散りばめられ・絡み合いながら年齢も境遇も異なる様々な人々によって自由に紡がれ続ける物語。山形国際ドキュメンタリー映画祭2001優秀賞受賞。



「ブンミおじさんの森」

(2010年 フィルム提供：ムヴィオラ)

開場／13:00

上映／13:30—15:24 (1時間54分)

タイ東北部のある村。腎臓の病に冒され静かな余生を過ごすブンミの下に19年前に死んだ妻・フェイが、数年前に行方がわからなくなった息子ブンソンが現れる。自らの最後が近いことを悟ったブンミは家族とともに洞窟の中へ。そしてブンミは岩がまるで宇宙の星のように輝くのを見ているうちに、ここで生まれた自身の前世を思い出し、やがてつづやくように話しはじめた…。カンヌ国際映画祭パルムドール(最高賞)受賞。



9/4

「アピチャップン短編集」

(2015年— フィルム提供：トモ・スズキ・ジャパン)

開場／9:30

上映／10:00—11:38 (1時間38分)

①「Worldly Desires」(2005)映画のロケ現場での出来事と撮影中の映画のシーンが交錯。②「Emerald」(2007)閉館してしまっただンコクのエメラルド・ホテル。その場所の記録と記憶の物語③「My Mother's Garden」(2007)有名宝石コレクションに、母の庭のイメージを重ねた映像④「Vampire」(2008)“旅”をテーマにした映像作品を依頼された監督。自ら出かけたタイとミャンマーの国境付近にはヴェンパイア鳥の伝承があり…。⑤「ナブアの亡霊(Phantoms of Nabua)」(2009)タイ東北部のナブア村。少年たちが炎のボールを蹴ると…。⑥《木を丸ごと飲み込んだ男(A Man Who Ate an Entire Tree)》(2010)タイの野生林で伐採を始めた男は、やがて、自然のドラッグ作用で自分をコントロールできない状態に…。



①worldly Desires



②Emerald



③My Mother's Garden



④Vampire



⑤Phantoms of Nabua



⑥A Man Who Ate an Entire Tree

「光りの墓」

(2015年 フィルム提供：ムヴィオラ)

開場／13:00

上映／13:30—15:32 (2時間2分)

タイ東北部。原因不明の「眠り病」にかかった男たちが眠る病院。そこを訪れた女性ジェンは、面会者のいない“眠り病”の青年の世話をしはじめ、眠る男たちの魂と交信する特殊な力をもつ若い女性ケンと知り合う。そして病院のある場所が、はるか昔の王の墓だったことを知り、原因不明だった“眠り病”と因果関係があることに気付く。そして青年はやがて目を覚まし…。

